

生ごみ処理機の使用

家庭でできる可燃ごみのほとんどは、水分を含んだ生ごみです。生ごみ処理機は、その生ごみを有機肥料に変えて再生利用するものです。

市では、九月一日以降に生ごみ処理機を購入された人に対して、費用の一部を補助することにしています。

助成額 処理機購入代金の3分の1（2万円を限度）

対象 市内で使用していること 自家用であること 市内に住民登録をしていること 申請に必要なもの 領収書（日付・金額・購入者名・購入品名・販売者が明記されているもの） 印鑑 補助金の振込先のわかるもの



申請先 環境課（203217）

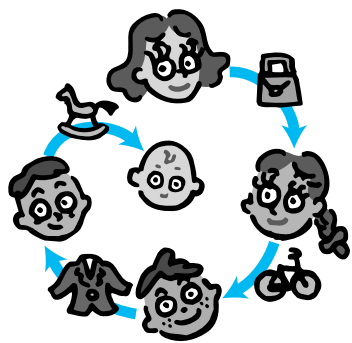
資源回収奨励金制度

新聞・雑誌・段ボールなどをごみとして出さないで、町内会や子ども会などの資源回収活動（廃品回収）などに出すようにしましょう。

市では、このような活動などに対して奨励金を支給しています。ご活用下さい。

第3のR（Reuse） 繰り返し使う

一度使って不要になったものの中には、まだ使えるものもたくさんあります。使わないからといって捨ててしまえば



ばごみになってしまいませぬが、繰り返し使えばごみにはなりません。例えば、子ども服などの着回しや、周りに必要とする人がいない場合はリサイクルショップへ持ち込むなど、何度も繰り返し使うことでごみを減らすことができます。

いま、始めよう

ごみを減らすコツは、できることから始めることです。例えば、牛乳パックなどを洗って開くなどのちょっとしたことで、可燃ごみから資源へ変身します。これだけで可燃ごみの袋がグツと小さくなるはずですよ。

子どもたちも鳥取市を住みよいまちにするために、ごみについて学習し、ごみを減らす活動を始めています。

みなさんも、子どもたちのお手本となるように、普段からごみの減量に心がけましょう。

未来を担う子どもたちのためにも……



ごみの出し方が悪くて火事になり、消防車まで出たことがあるなんて、びっくりしました。

今のごみの埋め立て場がいっぱいになったら、今度はどこにつくるのだろうかと思いました。

工場の機械などが傷んで使えなくなってしまうので、きちんと分別してごみを出さないといけないことがわかりました。

リファーレンいなばを見学に来ていた美保南小学校4年生の声

ペットボトルから、卵パックやものさし、服ができるなんて知りませんでした。

神谷清掃工場やリファーレンいなばがなかったら、家の中がごみだらけになって、歩くところもなくなってしまうかもしれないと思いました。

